

放火火災予防マニュアル

一般住宅	放火火災の実態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家の外に出してある不用品、古新聞等に放火される。 2. 郵便受けの新聞やチラシ類に放火される。 3. ベランダ等に干してある洗濯物に放火される。
	放火される要因	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブロック塀等により、内部に侵入した者を隠してしまう。 2. 建物の周囲に不用品や古材、ゴミ等が積んである。
	対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塀は、金網や生垣等はなるべく低くし、死角をつくらないように工夫する。 2. 不用品や古材等は、整理整頓して物置等へ保管する。 3. 外出時や就寝時は、窓、ドア等の開口部は必ず施錠する。 4. 外出時は、隣近所に一声掛けて協力を求める。 5. 門扉、通用口、車庫、物置等のドアは必ず施錠する。 6. 夜間用照明機器等を設置して、不審者に対処する。 7. 敷地外周部の可燃物にも注意する。

駐車場	放火火災の実態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 車両のボディカバーに放火される。 2. 連続放火されることが多い。 3. 車上窃盗、盗難等犯罪行為を隠ぺいするために放火される。
	放火される要因	<ol style="list-style-type: none"> 1. 屋外駐車場は、人目につきにくい。 2. ボディカバーは、火を着けやすい。 3. ゴミ、枯葉等可燃物が散乱している。
	対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塀は、金網や生垣等はなるべく低くし、死角をつくらないように工夫する。 2. 駐車場への出入口を設定して、自由に出入りできないようにする。 3. 常夜灯を設置して、駐車場内を明るくする。 4. ボディカバーは、「防災品」を使用する。 5. 車両のドア、窓は、完全に閉めて施錠する。 6. 所有者、管理者は巡回警備等を実施する。

空き家 ・ 空室	放火火災の 実 態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建物周辺に捨てられている生活用品やゴミ等に放火される。 2. 空き家、空室内に入り込んで放火される。
	放火される 要 因	<ol style="list-style-type: none"> 1. 敷地内、建物内への出入りが自由にできる。 2. 空き家等は、居住者がいないため不審者に対する監視体制ができていない。 3. 建物周辺、建物内に燃えやすい物が多量にある。 4. 付近住民の関心が薄い。
	対 策	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドア、窓等を施錠して空き家、空室へ侵入できないようにする。 2. 空き家の周囲を金網や鉄板で囲い、出入りできないようにする。 3. 夜間、建物周辺を照明する。 4. 所有者、管理者をはっきりさせて、連絡体制を確立しておく。 5. 所有者、管理者の管理意識を高め、巡回警戒等を実施する。 6. 空き家等の情報を把握し、付近住民に監視体制の協力を求める。

